

授業概要

スポーツ活動の目的は個人により異なる。その活動内容は、「する」「見る」「支える」「学ぶ」から「競う」まで多種多様である。スポーツ指導者とは、これらスポーツ活動に取り組む全ての人たちの良き支援者でなければならない。そのために必要となるスポーツの発祥や歴史、国際競技力向上から体罰やパワーハラスメント、スポーツ事故などを取り上げ、その指導論と対処法を具体的に論述し、主体的・対話的で深い学びの場となるように指導する。

授業計画

第 1 回	ガイダンス・授業の概要・現代社会とスポーツ（平均寿命と健康寿命・コロナ禍のスポーツ）
第 2 回	スポーツの意義と目的（競技スポーツ・映像：オリンピック激動の祭典）
第 3 回	望まれるスポーツ指導者像（スポーツコーチの役割・期限付き目標）
第 4 回	スポーツ、コーチの語源と業務（スポーツの起源）
第 5 回	スポーツと教育（水泳：北島康介と平井伯昌・競技スポーツ団体の発展性と競技力）
第 6 回	学校体育と運動部活動のあり方（非認知能力を高めるスポーツ指導）
第 7 回	スポーツ、体育活動中の事故防止について（映像：事故の分類・特徴・4 大重大事故）
第 8 回	救急救命法と応急処置（AED・WBGT 計の使用法・RICE 処置等）
第 9 回	スポーツの起源とスポーツ種目の発生（古代オリンピックと近代オリンピック）
第 10 回	近代オリンピックの問題点（ドーピング・国籍変更・暴力・パワハラ等）
第 11 回	重大スポーツ事故と危機管理（ASUKA モデルとコンフリクトマネージメント）
第 12 回	運動部活動におけるパワーハラスメント・暴力的指導の問題
第 13 回	教育としてのスポーツ指導（非認知能力を高める指導法・幼児期、児童期の指導等）
第 14 回	グループワーク
第 15 回	理想のコーチ像・発表会
第 16 回	まとめ・振り返り・レポート等

到達目標

スポーツの歴史、スポーツのビジネス化が理解できること。スポーツ指導者の倫理（体罰・パワハラ等）・スポーツの安全指導（頭部打撲・熱中症・頸椎の怪我・心停止など）などが理解できること。望まれるスポーツ指導者像が認識できること。

履修上の注意

グループ分けをして、課題を討論するアクティブ・ラーニング形式で授業を進めたい。そのための資料として各自がスポーツに関する新聞記事等を収集し授業の準備をすること。

交通機関の遅れ等のやむをえない場合は、遅刻を認めることがある。

予習・復習

スポーツ活動の報道から問題点や課題を見つけ出すこと。勝敗や試合結果以外の報道に注目し、記事等の内容を分析すること。ドーピング・国籍変更・体罰・暴力・パワハラ・スポーツ事故等の記事にも関心を持つこと。

評価方法

授業に取り組む意欲・態度（40%）ミニテスト（40%）レポート（20%）

テキスト

授業ごとにテーマに沿った授業資料を配付する。